

男女もインカレ出場 悲願の日本一を目指す

「決勝のステージに」(男子主将・渡辺) 「優勝を狙う」(女子主将・三浦)

男女ソフトボール部



男子ソフトボール部



女子ソフトボール部

ソフトボール部は男女とも8月下旬から9月にかけて開催の全日本学生選手権大会(インカレ)の出場権を獲得した。悲願の日本一を目指し、レベルアップを図っていく。

女子は5月に行われた関東学生春季リーグ戦で優勝し、早々とインカレの出場権を得た。決勝は前回優勝校の山梨学院大学を3-0と下した。主将の三浦季子(経営3)は今回投手陣の調子が良く、守備のリズムが作れたため攻撃に集中することができた」と振り返り、「守備の精密さ、スピード感、小技、サインプレーなど細かいところをもっと詰めるなどの精進を上げていきたい」と話す。インカレ前の東日本インカレで優勝して勢いをつけ、最後まで成長し続け、最高の形でインカレを迎えて優勝を狙います」と意気込んでいます。

昨年はインカレ出場権を逸した男子は、4月下旬から5月にかけての関東学生春季リーグ戦の完全優勝(5勝)を

春季対抗戦 島田が最優秀賞選手

ゴルフ部

関東大学春季Dブロック対抗戦は5月12、13日に栃木県の杉ノ郷カントリークラブで行われた。6人出場して上位5人のトータルスコアで順位を決める競技方法。ゴルフ部はチーム中、4位でCブロック昇格は果たせなかったが、島田青葉(業学4)が、71の145ストロークで最優秀賞選手(又タリスト)に輝いた。

初の最優秀賞選手となった島田は、ドライバーを多用せずフェアウェイに徹して好スコアに続けた。目標だった



右が主将の佐藤将吾、左が島田青葉

たリーグ戦の昇格は果たせなかったが、メタリストは本当にうれしかったと笑顔を見せる。秋の対抗戦は業学との兼ね合いで出場できるか不透明だが、出られたらリーグ昇格を果たしたい」と語る。

ゴルフ部は今シーズン、女子4人を含む新人11人を加えて部員が20人になって、2017年から主将の佐藤将吾(経営4)にとっても秋は最後の対抗戦。「春は全体的に調子が悪く流れに乗れなかった。個人的にも返って練習不足だった」と振り返る。秋は島田に続いて最優秀賞となり、D組1位で次のシーズンに上られるように準備していきたい」と意気込んでいる。

取材スタッフ
本多 重典(業学部6年) 千田 夏生(業学部4年) 若島 麻未(経営学部3年)
宝蔵寺佑樹(現代政策学部3年) 榎法谷佑樹(現代政策学部3年) 石川 慧(現代政策学部3年)
西村 太郎(現代政策学部3年)

アドバイザー
知見寺美紀(2014年度卒業) 吉田美咲(2015年度卒業) 高森隆美(2017年度卒業)

Jスポ **フェイスブック** はこちら ▶ <http://www.facebook.com/JOSAISPORTS>

記者募集
記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画なども協力してくれる学生もぜひ参加してください。連絡はこちらまで ▶ j-sports@josai.ac.jp

前期は無敗 勝ち点13で2位につける

サッカー部

3年ぶりの優勝、そして東2部リーグ優勝を目指す埼玉工業部リーグは5月2日に開幕した。6月22日の第7節までの前期は3勝4分(勝点13)の2位で、首位に勝ち点差3と奮闘に向けて好位置についた。

今年からリーグ戦が改正され、前期7節・中期7節・後期7節の計21試合という長期戦となった。文教大学との開幕戦は2-2の引き分け。2節の獨逸大学戦は5-0と快勝した。

第3節共栄大学戦を引き分けた後、第4節の埼玉工業大学戦は4-2と勝利。第5節の平成国際大学戦と第6節の尚美学園大学戦はいずれもドローとなったが、第7節の埼玉工業大学戦では3-0で快勝した。

狼山監督は「主力にケガ人が続出する中、思ったよりなメンバーを組むことができなかったが、代わりのチャンス



埼玉工業大学戦の先発イレブン

と与えられた選手がよくカバーしてくれて、失点数も1ゴール、チームとして一度も負けてはいない。大きな自信につながったと、前期を振り返り、中・後期に向けて「前期にカバールてくれた選手とテカガら復帰して、新しく選手、新しく選手によるチーム内の激しい競争によって、チーム力のアップをはかりたい。勝ち切れる。勝利の意識。決定的な奪還に向けての力ギとなる」と語る。

悪く流れに乗れなかった。個人的にも返って練習不足だった」と振り返る。秋は島田に続いて最優秀賞となり、D組1位で次のシーズンに上られるように準備していきたい」と意気込んでいる。

記者の目
高校時代、私は箱根駅伝の虜になっていた。選手たちが、目標に向かって諦めずに頑張る姿に感動したからだ。はまっていくなつて、関連する特集TV番組も見ることがなくなった。選手たちが1秒でも速くなるために、1秒でも早く次の走者に棒をつなぐために、毎日努力を続けている姿をそこに見た。スタートラインに立つまでの目に見えないところでの努力にも感銘を受けた。そしてお正月、ついに私は大手町まで赴き、「箱根」の臨場感を味わった。大学入学後、同世代の選手たちがこんなに頑張れるなら、自分も頑張れると思い始めた。業学部での勉強は大変だが、やりがいを感じながら頑張っているのも、そのおかげだと思ふ。

人の心を動かし、その人生に影響を与えることもあるスポーツ。その魅力をたくさんの人に知ってもらえたら、「城西大学スポーツ」(Jスポ)に携わりたい。私自身、Jスポを通して他のスポーツのことをもっと知りたいという思いもある。たくさんの方々にJスポを手にとってもらえたらと思う。

【千田夏生】

水久保初のスプリント 2種目表彰台の快挙

関東インカレ 13年連続1部残留決める!



200m 2位、100m 3位

第98回関東学生陸上競技選手権大会(関東インカレ)は5月23~26日、神奈川県相模原市の相模原ギオンスタジアムで行われた。陸上競技部の水久保漱至(経営3)が100mで3位、200mで2位となり、初のスプリント2種目表彰台の快挙を達成した。水久保が一走を務めた400mリレーと主将の川越広弥(経営4)の400mハードルで6位入賞。男子駅伝部の荻久保寛也(経営4)が5000mで6位、1万mで5位と2種目入賞を果たした。対校得点は総合11位(26点)で13年連続の1部残留を決めた。【君島麻未】

400mリレー6位入賞

400mリレー決勝は39秒58で6位入賞となった。水久保以外のメンバーのコメントは次の通り。

■三走・市川凛太郎(経営4)
頼もしい後輩に囲まれていたので安心してバトンを繋ぐことができた。予選はプレッシャーもあったが、スタンドのみんなの応援が聞こえ、楽しく走ることができた。今回勝つのはサポートのリレーメンバーも含め、全員で勝ち取った結果。ここで満足せず、全カレ(日本インカレ)では城西記録更新を目指す。



200m表彰台上がった水久保(左)=月刊陸上競技提供



右から水久保、鈴木涼太、市川凛太郎、齊藤斗把=月刊陸上競技提供

陸上競技部

2017年の世界リレ日本代表など同年代を代表するスプリンターの一人である水久保が、自身の関東インカレで初の表彰台に立った。追い風参考ながら100mが10秒19、200mは20秒58と自己記録を大きく更新した。

水久保は「記録に残らない追い風参考記録なので、後味が悪いと感じる」と話しながらも、「100mで調子がいいと感じていたので、200mでもいけるのではないかと思った」と手応えを分かったという。また、6位入賞した400mリレーでは「三走を任せられて緊張したが、しっかりスタートを切ることができた。毎年城西大学で入賞を果たしている。今年も入賞を目標に頑張りたい」と話す水久保、秋の日本インカレ、そしてオリンピックの来年、近年競争が激化している男子短距離で日本代表に食い込めるような走りを目指したい。(2面に関連記事)

城西大学 Sports
夏学期
2019年7月 vol.39
城西大学の歴史を創設者・水田三喜男先生
発行所 〒350-0295 埼玉県飯沼市ひやま台1-1 城西大学

100m決勝 3位でゴールする水久保漱至=月刊陸上競技提供

